

やさしい病害虫講座 37  
トマト-2

木村 裕

家庭菜園で栽培するトマトでは、害虫の被害が目立ちます。一方ハウスで栽培が主流となる農家栽培では病気もかなり問題になります。

【アブラムシ類】(病害虫講座—15 参照)

植えた直後の苗の頃によく発生します。赤褐色や緑色の小さな虫で新芽やその近くの葉の裏に群がって汁を吸います。発生が多いと葉は縮れ、排せつ物が付着してテカテカと光ります。少しなら指でつぶし、葉が縮れるほどに多いときには薬剤散布をします。この虫は暑さが苦手、暑くなると姿を消します。

【ナミハダニ】

最も厄介で重要な害虫です。体が非常に小さいうえに体色も淡黄緑色のため、みなさんでは見つけることは困難でしょう。ルーペ(拡大鏡)を使えて事前にダニがどんな虫で、どんな卵を産むかを知っていれば難しくはないのですが。

最初は1枚か2枚の葉にぼんやりとした黄色～褐色の5mm前後の斑紋が現れます。少し被害が進むと黒褐色の斑紋となり、同一の葉にいくつかの斑紋が現れ、しだいに葉が枯れ始めます。まるで病気に罹った葉のような感じですが、私もこれにだまされました。被害葉とその周りの葉の裏をねらってハダニ用の薬剤(ダニ太郎)を散布することです。通常の殺虫剤散布は効果がないばかりか有益な天敵を殺しますので最悪です。怪しい葉1枚で診断できますのでご持参ください。



疫病や輪紋病もこのような斑紋を生じますが、雨が何日も降り続かないかぎり家庭菜園ではまず発生しないでしょう。



【オオタバコガ】(病害虫講座—15 参照)

果実に孔をあけてアオムシが食い込んで黄色の虫糞をいっぱい排出します。虫の食入した果実ごとちぎって処分します。

【トマトサビダニ】(病害虫講座—15 参照)

先端に近い新しい茎の表面が褐色になったり、果実の表面が褐色になったりします。犯人の虫は小さくて見えません。無農薬栽培するとよく発生します。薬剤には弱いので手持ちの薬剤を散布してください。

【マメハモグリバエ】

葉に曲がりくねった白い筋が現れます。これは葉の中をハエのウジがトンネルを掘るように食ったためです。ひどくなると一枚の葉に数十匹の虫が住み着くために葉全体が白くなります。このようになりますと、株全体が衰弱して実のなりも悪く



なります。発生初期に殺虫剤を散布しましょう。

【ネコブセンチュウ】

根に白い根こぶができることがあります。発生が多いと株の勢いが衰えて実のなりも悪くなりますので、過去にキュウリなどでこの被害が現れた畑では、マリーゴールドを株もとに植えておくことで予防効果があります。